

**第 18 回軽金属学会賞、第 17 回軽金属学会功労賞、
第 13 回軽金属功績賞受賞者決定**

平成 27 年 2 月 23 日開催の第 29 回理事会にて、標記の受賞者を別紙の通り決定しました。

平成 27 年 5 月 16 日(土)、東北大学青葉山キャンパス工学部中央棟大講義室で開催の、軽金属学会第 128 回春期大会定時総会にて表彰を行います。

第 18 回軽金属学会賞

吉田 英雄 君 株式会社 UACJ 顧問 工学博士

第 17 回軽金属学会功労賞

該当なし

第 13 回軽金属功績賞

井上 博史 君 大阪府立大学大学院 工学研究科 准教授

第 18 回軽金属学会賞

受賞者 ^{よしだ ひでお}吉田 英雄 君 (株)UACJ 顧問 工学博士 昭和 25 年 3 月 18 日生

受賞理由

吉田英雄 博士は長年、航空機、車両、モーターサイクル、自動車などの輸送機器用アルミニウム材料分野で基礎研究と材料開発を行ってきた。その成果は、特許登録(110 件)され、小山田記念賞をはじめ、論文賞や功績賞として表彰されている。さらに軽金属学会の各種常設委員会にも参加し、学会活動の活性化のために尽力してきた。以下、その業績をまとめる。

航空機材に関しては 7000 系合金の結晶粒微細化の基礎研究を行い、7075 合金テーパーストリンガー材の開発に貢献し、B767 などに採用され、中日産業技術賞を受賞した。また、7475 合金では結晶粒微細化した超塑性材を開発した。さらに動的再結晶を利用した高速超塑性材の開発も行った。動的再結晶の発現機構では平成 4 年度論文賞を受賞した。2000 系合金では 2024 合金と同等の強度を有し中空押出可能な航空機用新合金 2013 を開発し、米国の AA、MMPDS 等の規格に登録された。

車両では 7N01 合金厚板の隅肉溶接端面での応力腐食割れ防止法の開発、7003 合金押出材の表面結晶粒粗大化抑制、6000 系合金では粒界腐食防止、負の二段時効効果の防止、さらに押出時のピックアップ発生機構を解明し、平成 11 年度論文賞を受賞した。

モーターサイクル用フロントフォーク材として、押出性を向上させた 7000 系高強度高靱性合金を開発し、高品質の継ぎ目無し管の製造に成功した。この技術開発で第 30 回小山田記念賞を受賞した。

自動車材として高成形、高強度の 5000 系ボディシート材や 5000 系の超塑性材を開発し、自動車用材として採用された。さらに 6000 系合金ボディシート材の開発も行い、低温でのベークハード性に優れた材料やヘム加工性の優れた材料を開発し自動車材に採用された。

その他、基礎研究としてアルミニウム中の固溶した不純物元素、鉄とケイ素に注目し、回復・再結晶挙動や延性、加工硬化・加工軟化に及ぼす役割を明らかにしている。

軽金属学会においては、副会長、理事、研究委員会委員長、東海支部長を歴任している。近年は研究委員会委員長として研究活動を活性化するため、産側のニーズと学側のシーズと結びつけた新規テーマの立ち上げ、推進に尽力している。

また最近では、わが国の誇るべき超々ジュラルミン開発の歴史を解説した記事を精力的に発表し、アルミニウム合金の啓蒙を図っている。

以上、吉田英雄 博士の企業におけるアルミニウム合金の基礎研究、さらに材料開発に尽力し、顕著な業績を上げた。また同時に学会活動を通して軽金属学会の発展に貢献してきたので、軽金属学会賞に値するものと判断し、ここに表彰する。

吉田 英雄 (よしだ ひでお)
(株)UACJ 顧問 工学博士

1. 略歴

1973年 3月	京都大学工学部冶金工学科卒業
1975年 3月	京都大学大学院工学研究科修士課程冶金学専攻修了
1975年 4月	住友軽金属工業株式会社入社
1988年 4月	同, 技術研究所 金属材料研究部 主任研究員
1991年 6月	京都大学より工学博士授与
1998年 4月	同, 研究開発センター 第一部長 兼 軽合金研究室長
2004年 6月	同, 理事, 研究開発センター 特別研究員 兼 第一部長
2005年 4月	同, 執行役員待遇理事 研究開発センター 特別研究員
2007年 4月	同, 常務執行役員待遇理事 研究開発センター 常務研究員
2013年 4月	同, 研究開発センター 顧問(常勤)
2013年 10月	株式会社UACJ 技術開発研究所 顧問(常勤)

2. 主な受賞歴

1983年 11月	軽金属学会 第一回奨励賞受賞
1986年 4月	科学技術庁 第45回注目発明選定証受賞
1992年 11月	軽金属学会 論文賞受賞(1999年2編, 2006年, 2012年も受賞)
1995年 11月	軽金属学会 第30回小山田記念賞
1996年 1月	第9回中日産業技術賞通商産業省大臣賞受賞
2000年 5月	超塑性研究会 平成12年度宮川賞受賞
2005年 6月	軽金属学会 第3回功績賞受賞
2009年 9月	日本アルミニウム協会アルミニウム鍛造技術賞受賞

3. 軽金属学会での主な活動歴

1987年 7月	編集委員会 委員, 編集幹事, 担当理事 (2015年5月まで)
2007年 5月	理事会理事 (2015年5月まで)
2009年 5月	副会長 (2011年5月まで)
2010年 4月	東海支部長 (2013年4月まで)
2012年 5月	研究委員会委員長 (2015年5月まで)

第 13 回軽金属功績賞

受賞者 いのうえ ひろふみ 井上 博史 君 大阪府立大学大学院 工学研究科 准教授 昭和 31 年 2 月 3 日生

受賞理由

井上博史君は、結晶集合組織について、解析の手法、形成機構、材料特性に及ぼす効果、制御技術の開発など多様な研究を行ってきた。正極点図による定性的な解析の時代に、定量的な解析が可能になる立方晶系の結晶方位分布関数（ODF）解析プログラムを開発した成果はわが国の集合組織研究の高度化に貢献するものとして特筆される。このプログラムは、現在国内の多数の研究機関で使用され、様々な成果をもたらしている。また同氏は ODF による集合組織解析結果から立方晶金属板材のランクフォード値（ r 値）を精度良く予測する手法の開拓に成功し、深絞り性向上のための集合組織制御の指針を与えている。同氏の提案した ODF による r 値予測プログラムは汎用化され、多様な機関で使用されている。この ODF に基づく材質予測の手法を、曲げ加工性予測も可能になるよう発展させ、板材の成形性の向上にも大きく貢献している。本会においては「集合組織研究部会」の部会長、「加工と熱処理による優先方位制御研究部会」の部会長、編集委員会や研究委員会の委員などを務め、国際的には材料集合組織国際会議（ICOTOM）の国際委員会委員を務めるなど軽金属学会の発展に貢献している。

以上のように、同君は軽金属に関する学術および技術面に顕著な功績を挙げており、ここに軽金属功績賞を授与する。